

2026年1月22日
出光興産株式会社

Idemitsu Art Award 2025「オーディエンス賞」は 3千人以上の投票で、松井文彌氏の『鰯と電話』に決定

出光興産株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：酒井則明、以下「当社」）が開催した展覧会「Idemitsu Art Award 展 2025」（会場：国立新美術館、期間：2025年12月10日～12月22日）の来場者投票で決まる「オーディエンス賞」に、松井文彌氏の『鰯と電話』が選ばれました。

Idemitsu Art Award 展は、次世代の美術界を担う若手作家を対象とした公募制美術賞「Idemitsu Art Award」の受賞・入選作品を展示する展覧会です。今期は5,476人にご来場いただきました。

今回のオーディエンス賞は、来場者のうち3,119人の投票により、受賞・入選作品54点の中から松井文彌氏の『鰯と電話』が選出されました。

また、今期はより多くの方に若手作家たちの挑戦を知っていただくため、Idemitsu Art Award 2025「SNS賞」を新設しました。2026年2月より皆さんに投票していただく予定です。詳細は、[当社公式X](#) および [Idemitsu Art Award 公式Instagram](#)にてお知らせします。

当社は、心の豊かさを育む「文化・芸術」を、企業市民活動の柱の一つとして位置付けています。今後も次世代を担う人たちの創造と挑戦、そして成長のエネルギーを支えていきます。

■オーディエンス賞 受賞作品



【作 家 名】松井文彌 (Fumiya Matsui)

【作 品 名】鰯と電話

【製 作 年】2025

【サ イ ズ】130.3 × 162.0cm

【技 法】キャンバス、油彩

<松井文彌氏のプロフィール>

1992年生まれ 京都府在住

2016年 京都造形芸術大学（現 京都芸術大学）大学院修了

<受賞者の言葉>

リアリズムは「確かなもの」を見つめようとする姿勢です。言い換えれば、それは当たり前の現実が信じられなくなる時にこそ現れるもので、だからこそリアリズムは具体物を描こうとするのだと思います。岸田劉生は「確かなもの」の在処を心の領域に求めました。心は曖昧なものがですが確実に存在していて、人は心の働きによって物事を捉えます。そうであって見れば、リアリズムとは虚と実の間にある現実に触れようとしているのであり、その為にはまず、野暮をはたらくしかないと思い、そのような気持ちで絵を描いています。

<受賞作品について>

ほとんどの場合、人間は魚を死骸の状態でしか見ません。スマートフォンに映るものは現実とは切り離された世界です。その二つは、ともに生きた関係を失い、触れるという行為を通してしか人間と関わることができない点で共通していると思い、描きました。

【参考】

Idemitsu Art Award 公式ウェブサイト

<https://www.idemitsu.com/jp/fun/art/index.html>

プレスリリース：[「Idemitsu Art Award 2025」グランプリに遠藤良氏の『結婚』を選出（2025年10月28日）](#)

当社公式 X



Idemitsu Art Award 公式 Instagram



～ 本件に関するお問い合わせ先 ～

出光興産株式会社 広報部広報課

https://www.idemitsu.com/jp/contact/newsrelease_flow/index.html